

## 第5章 かつしか戦略実行に向けて

### 1 かつしか戦略実行の仕組みづくり

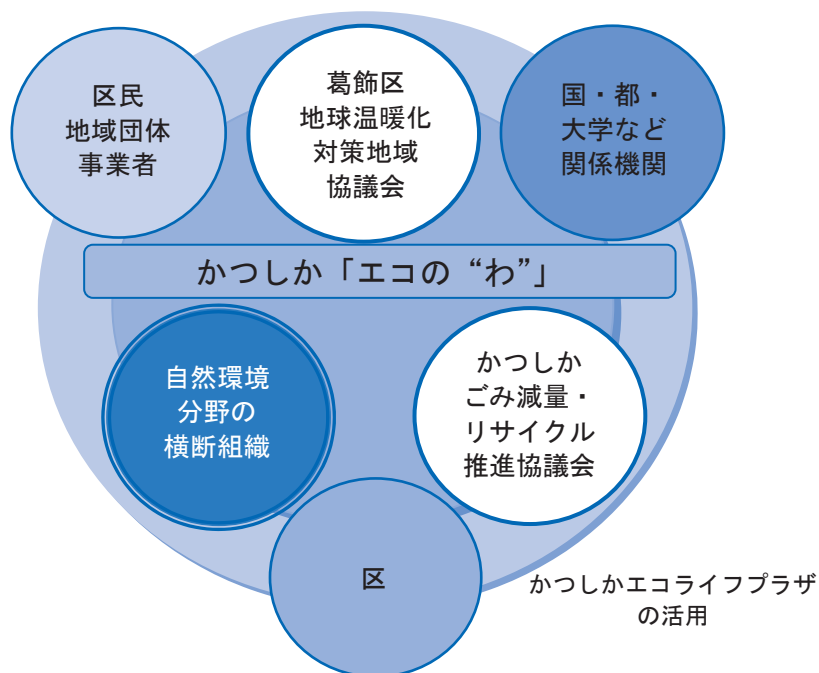
かつしか戦略を実行するにあたっては、区民、地域団体、事業者、区などが連携し推進していく仕組みをつくることが重要です。

区内で活動している区民、地域団体などは、区内の生物多様性の保全、生態系の再生・創出に向けた情報交換会・学習会の開催、機関誌の発刊、事業またはイベントの企画・運営などを協働で推進します。

葛飾区環境基本計画(第2次)で掲げられている各協議会・団体などの「エコの“わ”」の形成を図ることによって、区民、地域団体、事業者、区などの連携を強化します。

様々な部署が連携して取り組む必要があるため、全庁的な取組を推進します。

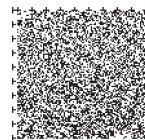
#### 《かつしか「エコの“わ”」》



#### <かつしか「エコの“わ”」形成プロジェクト>

これまで、区民、地域団体、事業者、区などにより環境活動が行われてきましたが、各主体が連携・協働することで、より効果的な環境活動を実施することが可能となります。

そのため、既存の葛飾区地球温暖化地域協議会やかつしかごみ減量・リサイクル推進協議会に加え、自然環境分野については、新たに横断組織を立ち上げます。そして、各種団体や横断組織などをネットワーク化することで、各地域の多様な主体が参加・協働できる仕組みづくりを推進します。



## 2 生きものや自然環境の継続的な調査

今後の葛飾区の自然環境の状態を把握・分析するために指標種を定めて、区民などと連携してモニタリング調査\*を行います。

自然・環境レポーター\*による調査や専門家による自然環境調査により、各施策の達成状況を一定の期間ごとに指標種の生息・生育状況によって確認する仕組みをつくります。調査結果は公表するとともに、かつしか戦略の見直し時期に合わせてフィードバックし、今後の取組に活かします。

指標種は、区民が日常で親しみやすく見つけやすい種と、専門家などによる調査を想定した種の2種類に区分して設定します。

- ①区民でも身近に見つけられる指標種を設定することにより、施策の達成状況を区民自らの手で確認ができるようにします。
- ②区が実施する専門家などによる調査に基づき、施策の達成状況についての客観的な評価を行います。

### ちょっと一休み



#### <指標種>

#### ～指標種とは～

水のきれいな小川や広いヨシ原など、特定の環境条件がそろっていないと生息・生育できない種のことです。

そのため、指標種が生息・生育しているかどうかを調べることにより、その指標種が必要としている環境が存在しているかが分かります。

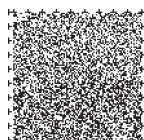
#### ～指標種を設定することのメリット～

- ・生物多様性の向上効果を指標種の生息状況から簡易にモニタリングすることが可能となります。
- ・見つけやすい種を設定することで、一般の区民がモニタリングに参加することが可能となります。



水田や池などの止水環境を指標するアキアカネ

写真撮影：田中利勝



### 3 評価・見直しと前進

区民、地域団体、事業者の参画・協働を得ながら、かつしか「エコの“わ”」での活動と人材が成長することによりかつしか戦略を推進します。また、「葛飾区環境行動推進本部会」にて、かつしか戦略に基づいた施策の推進、指標種を用いた達成状況の評価・点検などの進行管理を行います。

施策の取組結果や進捗状況について、指標種によるモニタリング調査\*を行い毎年公表していくとともに、定期的に分析・評価を行います。これらの結果を基に、必要に応じて個別施策の見直しを行います。

さらに、生物多様性を取り巻く状況の変化などに対応するため、次期環境基本計画の改定などのタイミングにあわせ、必要に応じて戦略の見直しを行います。

#### 《指標種を用いた個別施策の達成状況の評価》

